

「(歴史)飛鳥時代」

Deep Impact 国難！～白村江の敗戦がもたらしたもの～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 情報活用能力(学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 平成29年11月17日 10:50～11:40
- 2 学年 第1学年2組 (男子18名 女子18名 合計36名)
- 3 場所 新館2F 社会科教室
- 4 単元について

○ 本単元は、中学校指導要領 歴史的分野(2) 古代までの日本(イ)「律令国家の確立に至るまでの過程、撰閣政治などを通して、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことを理解させる。」を受けて設定されている。

この単元は、古代までの日本の歴史において、聖徳太子の政治改革、飛鳥文化、大化の改新、壬申の乱、大宝律令、平城京といったキーワードを通して、律令国家の確立に至るまでの過程を理解させる構成となっている。

○ 本学級の生徒は、男子18名、女子18名の学級である。授業中でのペア活動や班での活動は意欲的に参加することができる。以下の表は、9月に実施した授業アンケートの結果である。

		あてはまる			あてはまらない		
		よく	やや	計	あまり	まったく	計
課題設定	授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と予想しています。	25.0%	44.4%	69.4%	25.0%	5.6%	30.6%
情報の収集	授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしていますか。	5.6%	50.0%	55.6%	38.9%	5.6%	44.4%
	授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	13.9%	52.8%	66.7%	25.0%	8.3%	33.3%
その他	授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	50.0%	36.1%	86.1%	11.1%	2.8%	13.9%

この結果から、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりすることは得意な活動である。課題としては、授業で課題を解決するために、進んで資料を集め情報を収集することが苦手である。そのため、得意な班活動を通じて、資料を読み取って班員と考察し、それをまとめて表現することで、課題解決につなげていきたいと考えている。

○ 指導に当たっては、飛鳥時代になって天皇中心の政治制度を整えようとした聖徳太子の政治や、聖徳太子の没後、蘇我氏の独裁的な政治に対して新しい支配の仕組みを作る改革(大化の改新)に関わる学習を終えた後、更に古代の国づくりについて探求学習を設定したい。ここで設定する探求学習では、古代史上最大の敗戦である白村江の戦いの後、しまなみ海道に「まぼろしの防衛ライン」が築かれたという物語を切り口として、生徒の興味・関心を高める。

白村江の戦いの結果、いつ唐が攻めてくるか分からないという国家的な危機の中で、中大兄皇子を中心とする当時の人々が何を考え、どう行動したのか、複数の資料を読み取り、情報を集め考察する場面を設ける。このことにより情報活用能力の育成を図る。最終的には、古代国家の形成において必要だったことに関して、複数の資料を関連づけながら、根拠を明確にして述べることで、本校が目指している「コミュニケーション能力」「表現力」の育成を図る。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科、領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、「解決したい」或いは「達成したい」学習課題を設定し、学習班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

	資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3
知識・スキル	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）			
	表現力・コミュニケーション能力	（話す） 自分の考えや意見を、自分のことばで、表現することができる。	わかりやすく（伝える） 自分の考えや意見を、わかりやすくまとめ、自分のことばで、表現することができる。	（説得する） 自分の考えや意見を、わかりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で、表現することができる。
		（聞く） 相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、聞いている。	（聴く） 話の組み立て構造を考えながら、相手の意図や要点を整理しながら、聴くことができる。	（訊く） 相手の考えについて根拠の信頼性を判断しながら、訊くことができる。話された内容と自分の意見をふまえて疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。
	聞いて質問することができる。 （やりとり1回）	さらに深めた質問ができる。 （やりとり2回）	質問の後に自分の意見を述べ、内容を深めることができる。 （やりとり3回以上）	
意欲・態度	主体性	課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで、取り組もうとしている。	自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで、取り組もうとしている。

6 単元目標

○ 聖徳太子の政治、大化の改新などについて、小学校での学習の単なる繰り返しにならないように留意し、その学習内容を有効に活用しながら、我が国が律令国家として形づくられていったことを追究させる。これを基に、白村江の敗戦がもたらしたものについて取り上げ、律令国家の確立に至るまでの過程についての理解をさらに深める。

7 単元の評価規準

社会事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
古代までの歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、古代までの特色を捉えようとするとともに、古代までの文化遺産を尊重しようとしている。	律令国家の確立に至るまでの過程について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	律令国家の確立に至るまでの過程に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことを理解し、その知識を身に付けている。

8 指導計画（全4時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価	
			関意態	思判表	技	知理	評価規準	資質・能力（評価方法）
プロローグ（単元を貫く問い） 古代の日本は、どのようにして国づくりが進んでいったのだろう。								
課題の設定	1	聖徳太子の政治改革 （1時間）				◎	◎聖徳太子の目指した国の姿について、さまざまな制度や文化を通して、理解している。	【主体性】 （ワークシート）
	2	大化の改新と白村江の戦い （1時間）	◎			○	◎白村江の戦いについて関心を持ち、意欲的に追求しようとしている。 ○白村江の戦いの想像図や、当時の唐と日本の制度を比較し、日本が置かれた状況について読み取ることができる。	【主体性】 （ワークシート）
情報収集・整理分析・表現	3	国家的な危機の中で、当時の人々が何を考え、どう行動したのかという日本防衛のストーリーを、複数の資料を関連づけながら述べることができる。 【本時 1/1】		◎		○	◎日本防衛のストーリー（古代の国づくり）について、根拠を明確にししながら、複数の資料を関連づけて述べるができる。 ○国家的な危機の中で、当時の人々が何を考え、どう行動したのか、複数の資料を読み取り、情報を集め考察することができる。	【情報活用能力】 【表現力】 【コミュニケーション能力】 （グループ活動・発表）
実行・振り返り	4	律令国家の成立 （1時間）				◎	◎大化の改新から律令国家の成立に至るまでの過程について理解している。	【主体性】 （ワークシート）
エピローグ（単元を貫く問いの解決） 古代においても、対外勢力の影響なしに国づくりを語ることはできない。日本も対外勢力からの圧力を受け続けてきた。危機を放置すれば、国は滅びてしまう。自分たちの国を守るためには、短期間で国の制度を整え、対外勢力と対等に立場に立つことが求められた。古代の日本においては、国をまとめる中心として、天皇の役割が大きくなっていったのである。								

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○いつ唐が攻めてくるか分からないという国家的な危機の中で、中大兄皇子を中心とする当時の人々が何を考え、どう行動したのかという日本防衛のストーリーを、複数の資料を関連づけながら述べるができる。

(2) 本時の評価規準

- ・日本防衛のストーリー（古代の国づくり）について、根拠を明確にししながら、複数の資料を関連づけて述べるができる。（思考・判断・表現力）
- ・国家的な危機の中で、当時の人々が何を考え、どう行動したのか、複数の資料を読み取り、情報を集め考察することができる。（技能）

(3) 準備物

- ・教科書・ワークシート・資料・PC・TV・ホワイトボード・ミニホワイトボード×9

(4) 学習の流れ (3 時間目 / 全 4 時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力 (評価方法)
1 既習事項の確認。		
倭国が置かれた状況について確認する。	◇既習事項を確認させる。 ◆視覚資料を用意し、既習事項を思い出させやすくする。  白村江の戦い想像図	
2 本時の課題に至る発問を投げかける。		
発問に答える。 「なぜ日本は唐に征服されなかったのだろうか？」	◇生徒 2, 3 名を指名する。 「日本が唐に勝ったから」 「唐がやってこなかったから」	
3 本時の課題を設定する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>学習課題 : Deep Impact 国難！～白村江の敗戦がもたらしたもの～ 複数の資料をもとに、日本防衛のストーリーを考え、説明しよう。</p> </div>		
4 本時の資料を確認する。		
資料 1～7 までの内容を確認する。 資料 1.  資料 2. 日本に引き取られた百濟の民は百濟遺民とよばれ、朝廷に仕えた。その結果、彼等には多くの文化を伝えた。 天智 10 年 (670 年) 正月には、佐平 (百濟の 1 等官) 鬼室福信の功により、その縁者である鬼室斯は小錦下の位を授けられた (近江国蒲生郡に送られる)。百濟王の一族、豊璋王の弟・善光 (または禪広) は、朝廷から百濟王 (くだらのこにきし) という姓氏が与えられ、朝廷に仕えることとなった。その後、陸奥において金鉾を発見し、奈良大仏の建立に貢献した功により、百濟王敏福が従三位を授けられている。 資料 3.  資料 4.  資料 5.  資料 6.  資料 7. 	◇白村江の戦いから 50 年の間に整備されたものを黒板に提示し、1 つ 1 つ、簡潔に確認していく。 提示する資料の例	
5 ねらいを確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>ねらい : 古代の日本の国づくりについて、資料をもとに説明できる。</p> </div>		

6 情報を整理・分析し、課題解決をする。		
<p>白村江の戦いから50年の間に整備されたものを資料から読み取り、各班で、倭国にとって、なぜそのような変化が必要だったのか仮説を立てる。(グループ活動)</p>	<p>◇国家的な危機の中で、当時の人々が何を考え、どう行動したのかという日本防衛のストーリーを、複数の資料を関連づけて考えさせる。</p> <p>◇複数の資料を、できるだけ多く組み合わせて説明するようにさせる。</p> <p>◆なぜ、それが作られたのか、資料と資料の間をつなぐストーリーを想像させる。</p>	<p>・国家的な危機の中で、当時の人々が何を考え、どう行動したのか、複数の資料を読み取り、情報を集め考察することができる。〔資料活用の技能〕</p> <p>【行動観察・ワークシート】</p> <p>★情報活用能力</p> <p>【ワークシート】</p>
7 課題解決について発表をする。		
<p>仮説をまとめてミニホワイトボードで発表する。(グループ活動)</p>	<p>◇発表の仕方、聞く姿勢について確認しながら進める。</p>	<p>・日本防衛のストーリー(古代の国づくり)について、根拠を明確にしながら、複数の資料を関連づけて述べることができる。〔社会的な思考・判断・表現〕</p> <p>【行動観察・発表】</p> <p>★表現力、コミュニケーション能力</p> <p>【発表】</p>
<p>A 資料7から朝鮮式山城を築いたことがわかり、唐・新羅連合軍が倭国に攻め込んで来られないように防衛していたのだろう。その時に、兵をすぐに移動させたり、命令を素早く各地に伝えたりするため、資料6のような道路が使われたのではないだろうか。その中心として資料1のような大きな都をつくり、国の指揮命令系統をはっきりさせ、唐に負けない国になろうとしたのだろう。</p> <p>B 資料7から朝鮮式山城を築いたことがわかり、唐・新羅連合軍が倭国に攻め込んで来られないように防衛していたのだろう。その時に、兵をすぐに移動させたり、命令を素早く各地に伝えたりするため、資料6のような道路が使われたのではないだろうか。</p> <p>C 資料7から朝鮮式山城を築いたことがわかり、唐・新羅連合軍が倭国に攻め込んで来られないように防衛していたのだろう。</p>		
8 本時のまとめ。		
<p>教師のまとめを聞く。</p>	<p>◇生徒が発表したことを活用しながら、まとめる。</p> <p>「対外勢力に対抗するために制度を整え、国力をつけたことで、対外勢力も簡単にはやって来ることができなかつたのである」</p>	
9 本時を振り返り、次時につなげる。		
<p>振り返りを書く。</p>	<p>◇本時の学習課題にそつた振り返りを行うように促す。</p> <p>◇本時を振り返り、次時につなげる。</p>	

生徒の振り返り

・白村江の戦いで敗北したことをきっかけに、何とかして国を守ろうと様々なものが作られたことがわかつた。古代の日本というのは、良い意味でも悪い意味でも、外国の影響を抜きに語ることはできないのだと思つた。

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	白村江の敗戦をきっかけとした，日本防衛のストーリー（古代日本の国づくりについて）を3つ以上の資料を関連づけて説明できている。
B（合格）	白村江の敗戦をきっかけとした，日本防衛のストーリー（古代日本の国づくりについて）を2つ以上の資料を関連づけて説明できている。
C（乗り越えさせた実態）	白村江の敗戦をきっかけとした，日本防衛のストーリー（古代日本の国づくりについて）を1つの資料からしか説明できていない。

（5）板書計画

単元：飛鳥時代

ねらい：古代日本の国づくりについて，資料をもとに説明できる。

学習課題：Deep Impact 国難！～白村江の敗戦がもたらしたもの～

複数の資料をもとに，日本防衛のストーリーを考え，説明しよう。